



著者がロングインタビューした  
宮尾登美子(1926-2014)



宮尾登美子が  
心を奪われた  
高知・仁淀川の  
清流



宮尾登美子が  
暮らした東京・南  
六郷二丁目公  
団住宅。土手が  
散歩コース

鬼龍院花子の生涯 寒椿  
陽暉楼 權  
天璋院篤姫 序の舞

一世を風靡した直木賞作家の  
波乱の生涯を描いた本格的評伝  
二回のロングインタビューを中心に  
本人の日記、手記などを徹底取材  
魅力的な人間像が浮かび上がってくる  
彼女がまるごと生きた「昭和」の時代を  
さまざまなエピソードを交えて描く

# 宮尾登美子 遅咲きの人生

大島 信三 (おおしま しんぞう)

昭和17年新潟県生まれ。早稲田大学教育学部卒。産経新聞社に入社。新聞と雑誌の両部門で政治や経済、国際問題、文化全般の取材に携わった。各界著名人のロングインタビューは、文壇関係では宮尾登美子のほか井上靖、司馬遼太郎、江藤淳、辻邦生、城山三郎、石原慎太郎、五木寛之らに話を聞いた。『週刊サンケイ』編集長、『新しい住まいの設計』編集長、特集部編集委員、『正論』編集長、編集局編集委員、特別記者を経て平成21年退社し、現在はフリーのジャーナリスト。日本記者クラブ会員。

大島信三 著  
(ジャーナリスト)

四六判ソフトカバー 288頁  
本体 1,800円  
ISBN978-4-8295-0691-2

- 第一章 土佐の花街  
複雑系の家庭／家業への思い／喜世の溺愛／養母の乳房を求めた夜／そっと見守っていた生母
- 第二章 思春期の陰影  
得月楼で遊ぶ／仕込みっ子たちと両親の離婚／継母の連れ子にイジワル／父親に内緒で女子大に願書／歳月経てもブライド高く
- 第三章 仁淀川の清流  
女学生の身で娼妓を引き連れる／残っていたハンサム教員／ブリの皮／なぜ満州を目指したのか
- 第四章 満州の月  
水に泣く／学校に届いた青酸カリ／一個のまんじゅう欲しさに／収容所の不思議／佐世保の婦人相談所
- 第五章 農家の嫁  
死の病を宣告されて／立場が逆転した母と子／日記に救われる／手ぬぐいかぶって行商／農婦から保母へ／喜世と猛吾の死
- 第六章 火宅の人々  
フランス文学に傾倒／中学生が見た登美子像／されど離婚もできず／社会党に入党／火宅の仮面夫婦／作家の夢を優先
- 第七章 快晴のち豪雨  
女流新人賞選考の裏側／話題の人に／夢にまで見た大金／ドメステイック・ヴァイオレンス／百円硬貨を握りしめて／乞食小屋同然の家で
- 第八章 運命の扉  
ジープの騎士／連載と恋愛の同時進行／うしろめたさも／またしても嫁のつとめ／始まった暴走／悪夢の昭和四十年／破産／敗退
- 第九章 都の落人  
一宿一飯の愚痴／浮世の風／猛吾の日記に衝撃／ボツになった自信作／マツカーサーのビルで／家具を買える喜び／林芙美子の生き方に共感
- 第十章 多摩川の遅桜  
凝りに凝った自費出版／太宰治賞発表の日／伝説となったロングスビーチ／幸運を呼ぶ電話／二人三脚の逆転満塁ホームラン

10月中旬 新刊搬入予定です

配本部数申込締切は 9月30日(金) です

FAX 03-3813-4615

発行 芙蓉書房出版	注文数	注文者
宮尾登美子 遅咲きの人生 10月新刊 本体 1,800円	部	

芙蓉書房出版

〒113-0033  
東京都文京区本郷3-3-13  
http://www.fuyoshobo.co.jp  
TEL. 03-3813-4466  
FAX. 03-3813-4615